

| | | | | | | |
|---------------|------------------|---------|----------------------|-------|----|-----|
| 施策番号 3-2-3 | 施策名 道路交通環境の整備 | 基本目標 | 快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり | | | |
| | | 政策名 | 都市空間の整備と有効な土地利用の推進 | | | |
| | 主管課 | 建設都市整備課 | 課長名 | 橋本 直樹 | 内線 | 440 |
| | 施策関係課 | 企画財政課 | | | | |

1. 施策の方針と成果指標

| 施策の方針 | | 対象 | 意図 | | | | 結果 |
|-----------------------------------|---|----|--|------|------|------|-------------------|
| 道路交通、公共交通における移動の快適性、利便性の向上をすすめます。 | | 町民 | <ul style="list-style-type: none"> 交通アクセスを強化する 目的地までの快適な移動、利便性の向上をすすめる | | | | 安全で快適な生活を送ることができる |
| 成果指標 | 説明 | 単位 | 年度(策定時) | 28年度 | 29年度 | 30年度 | |
| ① | バスやJRなど 公共交通機関の利用に満足している町民の割合 | % | 42.4 | 32.9 | 38.4 | 50.0 | |
| ② | 冬期間の移動(徒歩、車、公共交通機関等)は、安全安心と感じる町民の割合 | % | 58.1 | 45.9 | 47.9 | 60.0 | |
| ③ | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①公共交通機関に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定 →平成29年度の実績が38.4%(向上)であり、道路交通及び公共交通環境の整備により50%を目標 ②冬期間の移動に対する満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定 →平成29年度の実績が47.9%(向上)であり、効率的な除排雪作業及び道路環境維持に努めることにより60%を目標 | | | | | | |

2. 施策の事業費

| | 28年度決算 | 29年度決算 |
|-----------|---------|---------|
| 施策事業費(千円) | 655,567 | 624,298 |
| 人工数(業務量) | 6,0282 | 5,5036 |

3. 施策の達成状況

| (1) 施策の達成度とその考察 | | | |
|------------------------------|--|--------------------------|--|
| ①平成29年度の成果評価(前年度比較) | <input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した | 想定される理由 | 成果指標①は前年度より向上 →台風被害で低下したが、公共交通機関復旧が主な要因 成果指標②は前年度より向上 →降雪状況に対する効率的な除雪作業等が主な要因 |
| ②平成30年度の目標値達成見込み | <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい | 根拠(理由) | ①各交通機関の利用状況を分析し、課題点に対する対応策を講じることで満足度の向上が期待できるが、コミュニティバス(じゃがバス)以外は町の施策での満足度の向上はできないため、目標達成は難しい。 ②降雪状況(降雪時間帯・降雪量)により除雪作業に対する満足度は大きく変動するが、除雪方法等の見直しにより、目標達成は可能 |
| (2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括 | | | |
| ①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業 | 地域公共交通確保対策事業 町道・歩道・駐車場等除排雪事業 | ②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 | |
| ③事務事業全体の振り返り(総括) | <ul style="list-style-type: none"> ●道路パトロールと維持修繕 →平成27年度から民間活力による包括的な委託により、道路の不具合箇所の修繕を迅速に対応し、道路利用者の安全確保に努めた。 ●除排雪作業 →降雪及び風雪状況に応じた除雪とパトロールを適宜実施し、冬期間の道路利用者の安全確保に努めた。 | | |

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| 進捗結果 | A | B | C | D | E |
| | | | ○ | | |

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

| | |
|-----------------------------------|--|
| 施策を取り巻く状況と今後の予測 | <p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕の推進が求められている ・早期除雪及び排雪路線の拡大を求める町民の意見が多く寄せられている <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路施設の経年劣化により、広範囲によるオーバーレイ及び改築補修の増加が見込まれる |
| この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の道路状況について、通行止め等の対応を地域と協働でできる仕組みがあると良い ・公共交通に対する満足度の向上を図るため、時刻表の改善などを町からの働きかけもすべきである ・農村部と市街地を結ぶ公共交通について、実態にあわせた運行形態を検討してほしい |

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●課題① 安全で安心な道路環境の整備 緊急時での道路網確保並びに交通渋滞緩和のために、町道イリスプラザ通の立体交差点化を含め、「芽室町道路マスタープラン」の見直しを行う。 住工混在による車両センター移転改築(住宅、小学校に隣接し、大型車両が出入りする) ●課題② 交通弱者への交通手段の確保 農村部の移動手段の確保 運転免許証返納者に対する移動手段の確保 |
|--|

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

| | | | | | | |
|-------------|-------------------------|---|---|---|---|---|
| 評価 | 計画策定時と比較すると前進していると評価する。 | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | |
| 今後の取組に対する意見 | 農村部の交通手段確保について対策が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | |

7. 総合計画審議会(外部評価)

| | | | | | | |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | 庁内評価と同じく前進していると評価する。 | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | |
| 今後の取組に対する意見 | <ul style="list-style-type: none"> ●芽室神社の鳥居と鳥居の間の道路が、祭りや初詣など、多くの横断があり危険と感じる。横断歩道を設置することはできないか。 ●要望しても横断歩道や信号の設置ができない危険箇所については、他の方法で注意喚起をするなど対策をしてもらいたい。 | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | |